重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	緊急時に機敏に対応できる体制がとられている	
施策名	災害時に対応できる体制を強化する	No.17

年度	平成28年度
責任部長	総務部長
主担当課長	危機管理室長
関係課	治水課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
災害時に自分の行う役割がわかっている人の割合（%）	↗	22.1	24.7	23.3	25.3	24.2	26.1	34.3
		26.1	29.0	28.4	25.5	28.5		44.8
あんしん・防災ねっと登録件数（件）	↗	—	—	—	—	—	—	—
		10,280	10,496	11,170	11,917	12,262		17,000
防災備蓄倉庫の設置数（か所）	↗	—	—	—	—	—	—	—
		58	62	66	70	74		74

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

国の中央防災会議や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。また近年はゲリラ豪雨などによる被害も各地で発生しており、防災についての関心が高まっている。連区や町内会、企業では、防災訓練や防災教室など防災教育が行われている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	まちづくり指標について、一部減少がみられるが、おおむね改善傾向である。しかし、5年後の目標値に未達成であるためB評価とした。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
緊急時に対応できるハード的な体制が整備されている	緊急時に対応できるソフト的な体制が整備されている		
防災施設充実強化事業	河川等水位監視システム活用事業		
	洪水ハザードマップ活用事業		
	携帯電話災害情報提供事業		
	地域防災計画の見直し業務		
	防災ハンドブック作成・活用事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果の設定は、緊急時に対応できる「ハード的な体制」と「ソフト的な体制」の切り口で捉えられており問題ない。ハード的な事業は、老朽化した発電機の買い替えや仮設トイレの買い替え等を実施している。ソフト的な事業は個々の住民の防災意識の高揚が必要で、市の対策の充実だけでは達成しがたいものがある。市としては、今後もソフト的な体制を中心に粘り強く継続していきたい。
次年度の改善計画	平成28年度に市民に配布をした「一宮防災ハンドブック」を活用した出前講座を実施し、市民の防災意識の高揚につなげていく。

＊＊＊